



岩手の農業を「技術力」で 支える職場です。

農村振興部 農村整備第一課
主任 山田 貴清
(平成14年 入会)

Q1.現在の仕事の内容を教えてください。

農家の皆さんが働きやすいように、田んぼの区画を大きくしたり、道路、水路の整備をする「ほ場整備事業」の調査、計画を担当しています。県内の農地を実際に歩き、水がどこから来てどこへ流れるか、道路をどこに作ればよいかなどを調査し、作業効率のよいほ場の計画と、事業効果の算定をします。そこには、農業土木の知識と経験が求められます。「水土里ネットいわて」は農業土木分野において、歴史ある組織の一つであり、50年以上培ってきた技術力とノウハウを背景に、**職員一人一人が高いプロ意識の中で農村地域を支えています**。また、東日本大震災や平成25年豪雨災害の際には、「水土里ネットいわて」の総力を挙げて被災農地の復旧に取り組み、私もその一員として被災地の復興の一助となることができました。

Q2.現在の仕事の魅力を教えてください。

ほ場整備の調査・計画は、地元の要望を聞き取り、自分のアイデアも交えながら道路や水路の配置計画をするため、新しい農村をかたち作っていくという点で面白みがあります。また、私が計画した田んぼが、子々孫々と受け継がれ**形あるものとして残っていく**ことに達成感を感じています。



Q3.印象に残っている仕事を教えてください。

東日本大震災の発生直後、「NSS」(農地・農業用施設災害復旧支援隊:県、岩手県土地改良設計協会、水土里ネットいわてで構成)の一員として、農地の被災状況調査を行いました。津波による被害の甚大さを目の当たりにし、何か自分にできる事はないかと思いました。その後、被災農地の復興の事業計画業務に携わり、通常の何倍ものスピードで計画が進む中でついて行くのがやっとでしたが、何とか3地区の復興計画を同時に進めました。現在も、復興事業は進行中ですが、微力ながら復興の手助けとなっていることが、技術者としての責任感を強くしました。

Q4.自己啓発はどのような事をしてますか。

勤続12年が経過した今では、技術士(農業部門・農業土木)をはじめとし、コンクリート診断士、1級土木施工管理技士など合計7つの資格を取得しました。仕事と自己啓発の両立は難しいですが、「水土里ネットいわて」は、有資格者の下での技術指導、資格試験に向けた勉強会の開催など、**資格取得を応援する組織体制ができています**。今では、各職員が年に一つ以上の資格取得を目指し、日々の勉強に励んでいます。

【全職員56名中、7名が技術士(農業部門・農業土木)を取得済みです。】

Q5.応募者への応援メッセージを。

どのような職場を選んでも、大変なことはありますが、自分で決めた道はとてもしやりのあるものです。また、人のためになる仕事や地域に貢献できる仕事は、自分自身も人間として成長できる可能性があると思います。一緒に岩手の農業農村整備に貢献したい方、待っています。